

ふるさと見て歩き

第127回

出羽三山供養塔

■出羽三山に行ってきました

いきなり私事にわたり、しかも県外のことで申し訳ありませんが、この夏出羽三山（山形県）に行ってきました。1泊2日のツアーで、1日目の目的地は月山、2日目は羽黒山と湯殿山でした。月山は行程上8合目の弥陀ヶ原まで、頂上の月山神社までは行きませんでした。羽黒山には出羽神社が鎮座しており、三山の神々を祀る三神合祭殿も建てられていて出羽三山観光の中心です。明治維新に伴う神仏分離前のお寺の五重塔が国宝に指定されており、それを背景にした吉永小百合のポスターを見たことがある方もいらっしゃるかもしれません。皇位継承を祝して御開帳されており、ツアーの見所の一つになっていました。湯殿山は奥の院である湯殿神社が鎮座していますが、山そのものが御神体ということで、大鳥居はあるものの、社殿はありません。御神体の一部である岩から湯が沸き出しており、神秘的でした。

■出羽三山信仰とは

行ってみようと思ったのは、市内で出羽三山の名を刻んだ石塔をよく見かけ、この地域の人たちが篤い信仰を持っていたのを知ったからです。信仰の対象となっている場所に実際に行ってみようと思ったわけです。

出羽三山は崇峻天皇の皇子蜂子皇子が開山したと伝えられています。崇峻天皇が蘇我氏に暗殺された時(592年)、難を逃れて出羽国に入った蜂子皇子が三山の神を祀ったのが最初とされているのです。以来、多くの寺院も建てられ神仏習合による信仰の対象となりました。修験道の道場としても崇敬されており、もともと山岳信仰から始まったものと思われまます。

信仰の内容は、先祖供養、死後の安楽と往生、除災・招福・治病・五穀豊穰など現世利益です。

江戸時代には東国三十三ヶ国総鎮守とされ、熊野三山（西国二十四ヶ国総鎮守）・英彦山（九州九ヶ国総鎮守）とともに「日本三大修験山」と称せられました。また、出羽三山に詣でることは「西の伊勢参り」に対し「東の奥参り」と称され、重要な人生儀礼の一つとされていました。特に江戸時代後期以降、盛んになりました。参詣者はやはり関東・東北地方からが中心ですが、これまでの参詣者は数知れまません。

■市内の出羽三山信仰に関する石塔

本市域でも江戸時代初期には信仰されていますが、特に後期になると信仰が広まり、盛んに参詣が行なわれたようで、三山、または「湯殿山」の山号、あるいは湯殿山の本地仏である大日如来を意味する梵字を刻んだ石塔が多く見られるようになります。供養塔とし



(左)大宮北町・西方寺の三山供養塔、(右)小田野上郷・三浦神社の三山供養塔

て、あるいは参詣記念などとして建立され、市内には合計30基の存在が知られています。

もっとも古いもので寛永2(1625)年、もっとも新しいもので昭和28(1953)年の年号が刻まれています。年号別では江戸後期、文化年間(1804~1818年)のものをもっとも多く6基、文政(1818~1830年)と天保(1830~1844年)の5基が続きます。

山号別では湯殿山がもっとも多く刻まれ、三山の場合は中央に一段高く刻まれています。これは湯殿山が三山の奥の院とされているためです。明治以降になると月山が中央に刻まれるようになりますが、これは明治政府により月山が最高位の官幣大社、他がそれより下位の国幣小社と社格が定められたためです。

■今も生きる出羽三山信仰

出羽三山信仰は今どうなっているのか、地域住民の方に伺いました。市内では今でも地区ごとに講を組んで、毎年8月の決まった日に2泊3日で参拝に行っているそうです。今はバスを借り切って行くそうですが、電車・バスがなかった時代には歩いて行ったと言います。大変な旅であったらと思いますが、それを敢行させる信仰の力というもの大きさを感じさせます。ただ、参加者が徐々に減少しているようで、将来どうなるのか心配されていました。

【謝辞】今回の取材では、美和地域の岡山壽さん、小舩賢壽さん、田沢祐男さんにお話をお聞かせいただきました。ありがとうございました。なお、小舩さんは修験者で、「友誠」という法名を持ち、行者の指導者格である「峰中先達」という地位にあります。

【参考文献】出羽三山神社『出羽三山史』私家版1954年、同『出羽三山』小学館2019年、大宮町歴史民俗資料館編『おみやの野仏とその祈り』大宮町教育委員会1995年、山方町文化財保存研究会編『山方の石仏石塔』山方町教育委員会1999年、緒川村郷土文化研究会編『ふるさとの野仏たち』緒川村教育委員会1991年、御前山村民俗調査グループ編『ふるさとの民俗』御前山村教育委員会1989年、飯村尋道『路傍の石仏』私家版1999年

■問い合わせ■

文化スポーツ課 文化・スポーツグループ
☎52-1111(内線344)